# 善光寺へと続く東山道風景

## 千曲市川西地区ウォーキングマップ

# 川西地区全図

かわにしburari・千曲市

## 東山道（北陸道連絡路）

松本市四賀の西織（にしごり）駅で東山道の本道と分岐して、越後国へと向かうルート。立峠（鎌倉以前の筑摩郡と更級郡の境）、乱橋を過ぎ麻績駅。麻績駅から善光寺平に出るが、最短ルートは猿ヶ馬場峠越えで桑原に出る道筋。古くは冠着山西尾根の古峠、あるいはこれと並行する一本松峠を越え、八幡に入る道筋があった。猿ヶ馬場峠越えは、桑原地籍から、小坂、元町に入り、稲荷山西方山麓を北進し、小坂山鞍部、四之宮、石川集落付近へと至る。ここから山麓に沿って篠ノ井（布施高田）へ、さらに千曲川左岸山麓を亘理駅、多古駅（三才）、沼部（信濃町）を経て、越後国に向かった。（※他に、冠着山東南部四十八曲峠越えで上山田に出る道があった。）

## 善光寺街道（北国西脇往還）

戦国時代から江戸初期の間に宿駅制度を整えることで成立。洗馬宿～善光寺間南北 19 里 20 町（約 80km）、12 の宿場と 3 つの峠で結ぶ庶民の道、信仰の道だった。また、城下町松本と門前町善光寺という信濃の経済・文化の中心地を結ぶ人や物資移動の大動脈でもあった。洗馬で中山道と分かれ、松本城下を経て山間地に入り、東山道（北陸道連絡路）と重なりながら、猿ヶ馬場峠を越えて善光寺平の南端・稲荷山宿に至り、篠ノ井追分で北国街道に合流。善光寺へと向かった。

姨捨山山頂から善光寺平を望む

## 木曽義仲巴御前出世街道

治承 4 年（1180）、木曽義仲は、平家討伐を命ずる以仁王の令旨を奉じて挙兵。翌年、大軍をもって信濃に侵攻し横田河原に布陣する平家軍に対し、佐久依田城から麻績に入った義仲軍は、北山地籍「木曽殿城」から、樋峯を下り、横田河原で平家軍と激突。戦いに勝利し、その後、倶利伽羅峠（富山県）の大勝を得て北陸を制覇、京へと入った。地元「川西地区振興連絡協議会」では、麻績から横田河原に向け義仲勢が進軍した道を「出世街道」と名づけ、御前ヶ池、木曽殿陣場、山の神の道筋を整備。約 20 本の道標も設置した。途中、佐野不動滝・佐野薬師寺に立ち寄ることも出来る。

## 新日本歩く道紀行 100 選

「各々の地域を結び、人の往来、物の交流、地域の繁栄に関わってきた道を、新たな視点から見直し、観光資源、健康資源、地域の活力、人々の健康に役立てよう」と企画された新シリーズ「新日本歩く道紀行 100 選」に、「祈りの道・善光寺街道（聖高原駅～稲荷山駅間）」が認定された。聖高原駅をスタート、麻績宿、猿ヶ馬場峠、茶屋跡群、火打（燧）石茶屋跡・一里塚、桑原宿、稲荷山宿、長谷観音を経て稲荷山駅に至る約 15.2km、5 時間半ルート。「川西地区振興連絡協議会」が街道を整備して 10 年（2016 年現在）。爽快な街道ウォークが楽しめる。

## ❶ 猿ヶ馬場峠

三峰山西麓と聖山東麓の鞍部にある標高 964mの峠。「猿ヶ馬場」は奥の方の駒場、古代の馬の集合所の意（『信濃の東山道』）。戦国期にはこの峠を街道とするようになり、慶長 19 年（1614）、松本藩主小笠原秀正によって洗馬～麻績宿の宿駅制度が整い、峠を越えて桑原、稲荷山と松本とが結ばれ、善光寺道（北国西脇往還）が成立した。道に沿って釣り人の姿が目立つ聖湖。周辺にキャンプ場、スキー場、別荘地が点在する。

## ❷ 念仏石・馬塚

峠から古道を下ると 10 分程で念仏石。昔はここで善光寺が遥拝でき、念仏を唱える旅人も多かった。夜、鉦の音と念仏の声が聞こえたとの説もある。峠をめぐって中世から村境争いが絶えず、念仏石のすぐ下に、正徳 4 年（1714）の村境（～明治 28 年／ 1895）に建立された馬塚がある。

## ❸ 火打（燧）石茶屋跡

旅人の安全を守るため、3 軒が松代藩から各千坪の山野を与えられ農業の傍ら茶屋を営んだ。三千坪の地名が残り、現在、名月屋寅蔵の火打石茶屋跡、井戸、住居跡の石積みを残す松崎茶屋跡がある。地元人が埋もれていた古道を復活整備した「ヲバステチカミチ」分岐、一里塚（善光寺道に現存する唯一の一里塚）、馬頭観音、善光寺本堂を遠望した「のぞき」の四辻も近い。

## ❻ くつ打ち場

馬の草鞋を履き替えさせた場所で、飲み水も豊富。旅人も草鞋を履き替え、峠に向かう急坂に備えた。辺りは履き替えた古い草鞋が山をなしていたという。

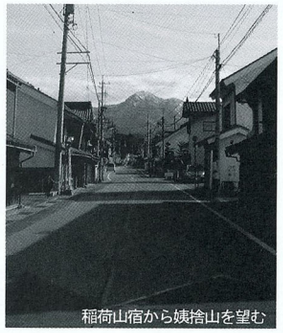
## 桑原宿

中世期末天正・慶長の頃は伝馬宿としての役割をもっていた。上杉景勝による稲荷山城の築城等により、慶長 7 年（1601 年）頃、宿場が稲荷山に移された。猿ヶ馬場峠の上り口に位置する桑原宿は、その後も松代藩の私的な宿場として、「間の宿」として江戸末期まで存続した。

桑原宿風景

## 稲荷山宿

織田信長が本能寺の変で倒れ、森長可支配のあと上杉氏の領有するところとなり、天正 10 年（1582）頃に新砦として稲荷山城がつくられた。稲荷山城築城とともに町割りがつくられた。慶長 7 年（1602）ごろ桑原宿の役割が稲荷山へ移され、これによって稲荷山宿が成立した。


稲荷山宿から姨捨山を望む

## 樋峯からの尾根道（義仲の進軍路）

義仲が麻績より筑摩越えをして横田河原に向かって進軍した尾根道といわれている。途中樺平には、ブナの自然林があり、一周 0.5km 程のコースを巡って、幹回り 3.5mのブナの大木や水ナラ、炭窯跡などを見る事が出来る。巴御前が髪を洗い、沐浴したと伝えられている御前ヶ池も近い。

## 金峯山長谷寺　真言宗智山派

日本三所（日本三大長谷寺）と呼ばれ、大和・鎌倉・信濃と並び称される古刹。寺伝（白助物語）には、舒明天皇年間（629 ～ 641）、允恭（いんぎょう）天皇六代の子孫・白助が、善光寺如来のお告げを得て、聖地大和長谷山中に出向き、供養三昧の日に感得した本尊十一面観音像を造り、一宇を建立したとある。信濃 33 観音霊場 18 番札所。春は一面の桜、千曲市一望の景観も素晴らしい。

金峯山長谷寺観音堂（信濃第十八番札所）

## 天用寺　浄土宗

稲荷山宿過ぎ徒歩 10 数分、善光寺街道沿いにある寺院。境内の徳本上人名号碑は、文化 13 年（1816）、5 月 17 日から 3 日間、徳本上人が逗留した証。この間に、小幅名号（木版）を 4463 枚、講中名号（自筆）は大小合わせて 59 枚配布した。同上人は、木魚と鉦を激しく叩く独特の読本徳本念仏、独特の文字で知られる。6 月末には松本に逗留。生安寺を中心に 2 万 8 千人を善導した。

## ❿ 姨捨駅

列車の窓から見晴らかす棚田、善光寺平の景観の素晴らしさは日本三大車窓の頂点。駅は姨石・芭蕉句碑の長楽寺一帯や四十八枚田、棚田地区など国指定の名勝地散策の拠点ともなっている。ホームから望む名月、眼下に広がる夜景も素晴らしく、ＪＲ東日本の快速列車「ナイトビュー姨捨」も夜景遺産として認定されている。スイッチバック式の構造も珍しい。

## 姨捨山長楽寺　天台宗

文化 11 年（1814）、麓の八幡宮（武水別神社）神宮寺の弟子円心が中興開基したと伝わる。本尊は聖観世音菩薩、信濃三十三霊場 14 番札所でもある。歌枕の里にふさわしい境内には、芭蕉翁面影塚をはじめ多くの歌碑や句碑が立つ。姨捨伝説の姨捨山だと伝わる姨石は、高さ約 15m、幅・奥行約 25mの巨岩。岩上から見る棚田、千曲の流れ、善光寺平の眺望も見事。

姨捨山長楽寺観音堂（信濃第十四番札所）

## ⓭ 八日市場

姨捨棚田のすぐ真下に位置する八日市場（ようかいちば）地籍。ここには東條地籍にまたがる東條遺跡（更級郡衙／古代の役所関係の遺跡）があり、古代・中世の集落跡も発見されている。多くの人が住み、商人や神社参拝者が往来し、遠方の文物がもたらされ、売り買いされるエネルギッシュな市場と生活が根付いていたと推測される。また、松本から麻績を抜け、一本松峠を経て、八日市場、八幡まで通じている街道は、中世（鎌倉時代／約 800 年前）に整備された古道「一本松街道」とされる。


家内安全・厄除け・心願成就
http://www.hasedera.net
信濃三十三番観音霊場第十八番札所
長谷寺
信州・鎌倉・奈良 日本三所長谷観音
長野市篠ノ井塩崎878 ☎026-292-2102

Shinriku
シンリク観光タクシー
タクシー配車センター 026-273-2200/273-8888
〒387-0001 長野県千曲市大字雨宮 663-5


## ウォーキングのモデルコース

### コース 2　約 11.4km

感動！善光寺平一望
旅人風景を歩く

聖高原駅
↓5.5km
①猿ヶ馬場峠
↓1.0km
②念仏石
↓0.5km
③火打ち石茶屋跡
↓0.1km
ヲバステ近道
↓2.5km
⑨郡頭無し
↓0.8km
⑩姨捨駅
↓0.2km
⑪一本松踏切り
↓0.5km
⑫長楽寺
↓0.3km
⑩姨捨駅

### コース 3　約 11.5km

姨捨から稲荷山宿へ
更級文化探訪

⑩姨捨駅
↓0.2km
⑪一本松踏切
↓1.8km
⑬八日市場
↓0.3km
⑭斎ノ森神社
↓2.5km
⑮郡元八幡
↓1.2km
⑯治田神社（上宮）
↓1.8km
⑰龍洞院
↓1.0km
⑱塚穴古墳
↓0.2km
⑲越将軍塚
↓2.0km
長谷寺
↓0.5km
稲荷山駅

発行／千曲市川西地区振興連絡協議会　平成28年3月